

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 10日

事業所名 フータル岸和田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	1人あたり3㎡以上を確保している。また、一人につき一つ机を用意することで利用児童が課題に向かいやすいよう工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	今年度の人員配置基準を満たした人員配置を行い、支援している。スタッフの中には、臨床心理士や公認心理師、保育士、小学校教諭の資格を持つものを配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	玄関や相談室への出入り口等、段差を作らない配慮をしている。スタッフルームの出入口にはスロープを設置している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	50%	午前中に提供する課題内容のプレゼンテーションを行い、課題の目的などをスタッフ全員で確認している。振り返りについては出来る範囲で行い、共有事項等あれば引継ぎを行っている。	時間に限りがあることから、短時間でより効率的な目標設定と振り返りができるようミーティングを構造化していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%	頂いた意見をもとに改善に努めている。HUGシステムを導入し、WEB上で提供記録の閲覧が出来るようになった。	評価表等でいただいた意見を基に、以前からニーズのあった祝日やGW、お盆などに開所することとなった。今後も保護者等の意向等の把握、改善に努めていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページ上で公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		今後、利用時期について検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	法人内の研修だけでなく、行政や他団体主催の研修などオンライン形式も含め積極的に参加している。また参加できなかったスタッフに対して、参加したスタッフが研修内容を伝える機会を設け、内容を共有している。	今後も事例検討会、防災、虐待防止など法人内外含め積極的に参加していく予定。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者から提供された資料等を総合的に分析し、個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	38%	63%	保護者のヒアリングや、支援時における利用児童の理解、保護者から提供された資料等を総合的に分析し、個別支援計画を作成している。	保護者から提供された発達検査結果等は状況把握のツールとして用いることがある。今後、VinelandやS-M社会生活能力検査を職員全員で周知できるよう勉強の機会を設ける予定。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	課題の立案者を中心にスタッフで試作、試行している。その後、改善点などの検討を行い、実施に至っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	日々成長、変化していく利用児童の状況把握を行い、プログラム内容を作成している。工作課題、コミュニケーション課題、みんな遊びなど、連続して同じカテゴリーが続かないこと、支援カテゴリー（言葉、手先など）においても同じ課題が提供されないよう工夫している。毎回子どもの興味・発達・関係性などに配慮し、プログラムの狙いを決めている。	課題の立案者を中心としたプログラム作成会議を定期的に行い、子どもの興味・発達・関係性に配慮しながら課題内容を検討、作成している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	平日では、語彙力や言葉の使い方、手先の扱い等、利用児童のニーズに基づいた課題設定を行い、日々継続して取り組める課題を提供している。休日や長期休暇では、余暇の過ごし方にも視点を広げた課題提供を行っている。また、地域との交流を目的として、外出や買い物体験など様々な活動を取り入れている。平日行った課題を更に深化拡充できる内容を企画している。	休日や長期休暇においては、今後は自立を目的とした公共交通機関を利用した外出や、外食体験（子ども自身が注文・会計を体験する）等を企画・実施していきたい。

14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別支援計画に基づきつつ、支援中の様子や保護者からの聞き取りなどを踏まえ、子どもの日々の状況を個別と集団の双方の面から分析し、より適した支援ができるよう計画している。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	一日の支援の流れ、各々の役割などについて、打ち合わせを行っている。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	38%	63%	児童の様子やプログラムの内容等、共有する時間を設けるよう努めている。	時間に限りがあることから、当日に振り返りが出来ない場合がある。短時間でも振り返りができるようミーティングを構造化していく。共有事項については記録を残す、翌日のスタッフに引き継ぐ等、スタッフ全員に周知するよう努めている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	50%	50%	支援時間中の記録を保存している。	時間に限りがあることから、当日に振り返りが出来ない場合があるが、共有事項等引き継ぎを確実に出来るようミーティングの構造化をしていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	利用児童についてスタッフ間で会議（現状把握、支援の振り返りなど）を行っている。その後、保護者との面談を行い、個別支援計画の見直し及び作成を行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%	0%	自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇の提供はプログラムの立案と実施を通して組み合わせを考えて行っている。また、日々の活動の中で不足しがちな地域との交流の機会については、休日や長期休暇等を活用し、地域開催のイベント参加等に取り組んでいく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	会議には、常時児童発達支援管理責任者が参加している。状況に応じて常勤職員も参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校送迎について、毎年年度初めに管理者が学校へ出向き、送迎時の対応や学校との連絡方法を共有している。また、保護者の了解のもと学校と情報共有を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療的ケアが必要な利用児童は現在のところ利用していない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	25%	家庭と各関係機関の連携ファイル(岸和田市 あゆみファイル等)を用いて、情報の共有に努めている。	今後は、保護者のニーズに合わせて担当者会議の開催を呼び掛けるなど積極的に連携を深めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	75%	25%	今後障害福祉サービス事業所への移行の可能性があるため、情報共有を行う予定。	現在のところ該当児なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	63%	38%	障害者基幹相談支援センター主催の研修の機会を利用している。	今後も研修に積極的に参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		近隣に児童館がないため難しい面もあるが引き続き活動の場を探し、参加していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	25%		岸和田市の放課後等デイサービスネットワークへ参加し、合同の研修や地域に向けた情報誌の作成などの活動に取り組んでいる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	日々のやり取りとして、送迎時や電話、提供記録等を通じて理解の共有を図っている。また、モニタリング以外にも状況に応じて面談の時間を設定し、情報共有を行っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	日々の様子を共有する中で、保護者の悩みなどに寄り添い理解に努めている。少しでも生活に活かされることを目的とした助言を行っている。	子どもの様子を共有する中で、声掛けや支援方法などを適宜保護者にお伝えしている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に丁寧な説明を心掛けている。また、利用開始後も必要に応じて説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	電話や面談の中で、保護者の悩みの理解に努め、支援中の児童の様子から窺える理解や、それに基づいた助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		保護者のニーズを改めて把握した上で、実施に向けた検討を行いたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	88%	13%	苦情受付担当(管理者)を設定している。苦情が発生した場合には、スタッフ間において原因と改善策を検討し、迅速に対応している。	対応の体制について、スタッフ間において定期的に共有を行い、今後も迅速かつ適切に対応していけるよう努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%	SNSにて取り組みの内容等を発信している。	会報といった文書による発信には至っていないが、事業所のLINEやインスタグラムによる発信に積極的に取り組んでいる。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報に関する書類やデータは、鍵付きキャビネットに保管している。スタッフには誓約書を書いてもらい、個人情報保護法の観点から意識を高められるよう促している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	選択肢を用いる、イラストで提示するなど工夫し、利用者が意思の発信をしやすくなるよう努めている。また情報を伝える際は、児童(保護者)が十分に理解し得る方法を考え、正確に伝わるよう努めている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	0%	100%		方法・目的を精査し、検討していく。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	75%	25%	常に確認できるようにスタッフルームに保管している。	マニュアルの内容については必要に応じて適宜修正・更新していく予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に取り組んでいる	定期的な避難訓練に加え、防災学習も日々の活動に取り入れている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待の防止と対応の手引きを作成し、周知している。	虐待防止の為の対策を検討する委員会を開催するとともに、その結果について研修の機会として周知していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	63%	38%	運営規定にも記載し契約時に保護者にも丁寧に説明を行っている。	スタッフにも周知しているが、スタッフの入れ替わりなどもある為、定期的な確認・共有をしていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	アレルギーの有無について聞き取りを行い、書面にて確認している。必要に応じてアレルギーの検査結果を保護者に提出していただいている。	現状、医師の指示書による対応が必要な児童は在籍していない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	63%	38%	ヒヤリハット事例を作成し、共有している。	事例としてあがった内容をスタッフ間で共有し、よりよい支援に繋げていく。